



Hewlett Packard
Enterprise

HPE OneView 5.4 サポートマトリックス

摘要

このサポートマトリックスでは、HPE OneView を仮想マシンホストにインストールして使用するためのハードウェア、ファームウェアおよびソフトウェアの各要件を示します。

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。Hewlett Packard Enterprise は本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則である FAR 12.211 および 12.212 の規定に従って、コマーシャルコンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダーが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクを使用すると、Hewlett Packard Enterprise Web サイト外に移動します。Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報は Hewlett Packard Enterprise の管理対象外であり、それらの情報について責任を負いかねますのでご了承ください。

商標

Google[®]は、Google Inc.の登録商標です。

Microsoft[®]、Windows[®]、および Windows Server[®]は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

Red Hat[®]は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc.の商標または登録商標です。

VMware ESXi[®]は、VMware Inc.の登録商標です。

保証

Hewlett Packard Enterprise は購入日から 90 日以内であれば、問題のある配布メディアを交換します。



目次

アプライアンスの要件.....	5
アプライアンスの VM とホストの要件.....	5
仮想マシンを展開する場所.....	7
高可用性のためのプランニング.....	7
ファームウェア要件.....	7
Service Pack for ProLiant (SPP)	7
管理対象および監視対象デバイスのファームウェアの最小要件.....	7
サポートされる Smart Update Tools.....	10
ラックマネージャーの HPE OneView 管理対象 Superdome Flex ファームウェアの アップデート.....	11
サポートされるインターネットプロトコル (IP) のバージョン.....	11
サポートされる Web ブラウザーとバージョン	12
サポートされる HPE OneView REST API バージョン.....	12
画面解像度.....	13
サポートされるハードウェアおよびソフトウェア.....	14
管理対象の ProLiant BL および WS サーバーブレード.....	14
管理対象の ProLiant DL ラックマウント型サーバー.....	14
管理対象の ProLiant DX サーバー.....	15
管理対象の ProLiant ML サーバー.....	15
管理対象の ProLiant XL サーバー.....	15
管理対象 Superdome Flex サーバー.....	16
サーバーハードウェア管理機能.....	16
監視対象サーバーハードウェア.....	19
サーバーハードウェア監視機能.....	20
HPE BladeSystem エンクロージャー.....	21
管理対象ストレージアレイ.....	21
管理対象の SAN スイッチと SAN マネージャー.....	22
ネットワークの LOM カードおよびメザニンカード.....	24
サポート対象の LOM カードとメザニンカード.....	24
インターコネクトモジュール.....	25
インターコネクトの要件.....	27
アダプターおよび HPE Virtual Connect の構成.....	28
ラックと電源.....	29
サポートされるストレージコントローラー.....	29
ローカルストレージをサポートする ProLiant DL サーバー.....	30
ハイパーバイザーマネージャー.....	31
管理対象ハイパーバイザークラスターのハイパーバイザー.....	31
FIPS および CNSA モードでの HPE OneView 仮想アプライアンスのデバイスサポート.....	32
HPE OneView の並行タスクとキューに入るタスク.....	39
構成の上限.....	41
割り当てられる ID.....	41
アプライアンス.....	41
接続.....	41

SAN ストレージ.....	42
エンクロージャー.....	42
ネットワークの制限.....	43
ネットワーク.....	43
電源およびファシリティ.....	44
サーバーハードウェア.....	44
サーバープロファイル.....	45
サーバープロファイルテンプレート.....	46
証明書チェーンの深さ.....	46
ハイパーバイザークラスタープロファイル.....	46
Web サイト.....	47
HPE OneView Remote Technician.....	49
サポートと他のリソース.....	50
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	50
アップデートへのアクセス.....	50
リモートサポート（HPE 通報サービス）.....	51
保証情報.....	51
規定に関する情報.....	51
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	52



アプライアンスの要件

アプライアンスの VM とホストの要件

HPE OneView は、サポートされるハイパーバイザーホスト上で動作する仮想アプライアンスです。

表 1: サポートされるハイパーバイザーとバージョン

ハイパーバイザー	バージョン
VMware vSphere ESXi	<ul style="list-style-type: none">・ 6.5 Update 2・ 6.5 Update 3・ 6.7 Update 2・ 6.7 Update 3・ 7.0
注記: <ul style="list-style-type: none">・ HPE OneView 5.0 以降をインストールするためには、最小限 VM ハードウェアバージョン 11 と ESXi 6 以降が必要です。・ ハードウェアタイプが変更されていない場合、ESXi 5.5 シリーズでの HPE OneView 5.0 以降へのアップグレードは成功しません。	
Microsoft Hyper-V	<p>Hyper-V は、Hyper-V 役割がインストールされている次の Microsoft Windows プラットフォームでサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none">・ Windows Server 2012・ Windows Server 2012 R2 (ProLiant Gen10 プラットフォーム)・ Windows Server 2016・ Windows Server 2019 長期サービスチャネル (LTSC)
KVM	<ul style="list-style-type: none">・ RHEL 6.10・ RHEL 7.6 ¹・ RHEL 7.7・ RHEL 7.8・ RHEL 8.0・ RHEL 8.1・ RHEL 8.2

¹ 第 2 世代インテル Xeon スケーラブル・プロセッサのみサポートします。

注記:

- ・ HPE OneView 5.0 以降をインストールするためには、最小限ハードウェアバージョン 11 と ESXi 6 以降が必要です。
- ・ ハードウェアタイプが変更されていない場合、HPE OneView 5.0 以降へのアップグレードは成功します。

次の VMware ドキュメントは、VMware 6.7 ドキュメントの最小システム要件に関するものです。ただし、最小ハードウェア要件は 6.0 であることが必要です。

ESXi/ESX (1003661) をインストールするための最小システム要件

アプライアンスの仮想マシン (VM) は ProLiant G7 クラス CPU またはそれ以降の VM ホスト上で実行する必要があります。ハイパーバイザーホストが HPE OneView 仮想アプライアンスの次の最小リソース要件で構成されていることと、これらのすべてのリソースが VMware vSphere リソース予約機能を使用してアプライアンス用に実際に予約されていることを確認します。

- ・ 2 GHz 以上の仮想 CPU 8 個
- ・ 正確に 24 GB のメモリ
- ・ シックプロビジョニングされた 275 GB のディスク領域

仮想ディスクを手動で拡張して、ファームウェアレポジトリのサイズを増やすことができます。ベストプラクティスは、VMware vSphere ハイパーバイザーまたは Microsoft Hyper-V ハイパーバイザーでのアプライアンスのインストール時に仮想ディスクを拡張することをお勧めします。

- ・ 管理用とデータ用のネットワークを分離することをお勧めします。ただし、デフォルトでは、HPE OneView は管理ネットワークにのみ接続します。

仮想アプライアンスは正確な時間ソースを持っていることが重要です。ネットワークタイムプロトコル (NTP) を使用する仮想アプライアンスの正確な時間を確保するには、次の 2 つのオプションがあります。

ハイパーバイザー上の NTP	ハイパーバイザーホストが NTP を使用するよう に構成し、時刻ソースとしてハイパーバイザーホ ストを使用するように HPE OneView を構成しま す。
HPE OneView の NTP	HPE OneView が 3 つ以上の NTP サーバーを使 用するように構成します。

- ・ ハイパーバイザーホストは最小限のリソース要件を満たしている必要があります。次は、VMware および Microsoft ハイパーバイザーホストの要件に関する詳細情報のリンクです。
 - **ESXi/ESX (1003661) をインストールするための最小システム要件**
 - **インストールの前提条件を確認する** (Windows Server 2016、Microsoft Hyper-V Server 2016、Windows Server 2019、Microsoft Hyper-V Server 2019 に適用)
 - **Hyper-V をインストールして仮想マシンを構成する** (Windows Server 2016、Windows Server 2019)
- ・ BIOS 設定の電源管理オプション：
 - パワーレギュレーターをスタティックハイパフォーマンスモードに設定する。
 - 電力プロファイルを最大パフォーマンスに設定する。
 - Hewlett Packard Enterprise は、CPU とメモリの予約/共有を推奨します。

仮想マシンを展開する場所

HPE OneView は、アプライアンス VM およびホストの要件にリストされている要件を満たすサーバーハードウェアに展開できます。HPE OneView を使用して HPE OneView が実行されているハイパーバイザーホストを管理する場合は、特定の制限が適用されます。詳しくは、HPE OneView インストールガイドの HPE OneView によって監視または管理されるハイパーバイザーホストへの HPE OneView の展開の章を参照してください。

❗ **重要:** Hewlett Packard Enterprise では、HPE OneView 仮想アプライアンスは、管理機能専用のハイパーバイザー環境に展開し、本番ハイパーバイザー環境とは別にするをお勧めします。

注記: 管理対象サーバーでアプライアンスをすでに構成している場合は、2 つ以上のハイパーバイザーホストで構成されているクラスターにアプライアンスがインストールされていることを確認してください。そうすることで、フェイルオーバーの場合にアプライアンスを別のクラスターメンバーに移行できます。

高可用性のためのプランニング

HPE OneView を高可用性 (HA) 構成で使用するには、ハイパーバイザーのドキュメントを参照し、特定の要件を確認してください。

アプライアンスの可用性を維持するために、HPE OneView には構成設定および管理データをバックアップファイルに保存するバックアップ機能が用意されています。Hewlett Packard Enterprise は、できれば毎日、および主要な構成変更後、ご使用のアプライアンスのバックアップを取るをお勧めします。

詳しくは、HPE OneView ヘルプの「アプライアンスのバックアップ」および「アプライアンスをバックアップするためのベストプラクティス」のセクションを参照してください。

ファームウェア要件

この項では、HPE OneView で管理する予定のデバイスのファームウェア要件について説明します。

デバイスをアプライアンスに追加してアクティブに管理するには、デバイスが**管理対象および監視対象デバイスのファームウェアの最小要件**の項に示すファームウェアの最小要件を満たしている必要があります。

注記: 監視対象デバイスのファームウェアは、HPE OneView の管理対象外です。

Service Pack for ProLiant (SPP)

最新の Service Pack for ProLiant (SPP) を <http://hpe.com/info/SPP> からダウンロードし、アプライアンスまたはアプライアンスに追加された外部レポジトリにアップロードします。各 SPP でサポートされているオペレーティングシステムのリストは、<http://hpe.com/info/SPP> から入手できます。

注記: SPP の最新のプロダクションバージョンとポストプロダクションバージョンの詳細については、https://techlibrary.hpe.com/jp/ja/enterprise/servers/products/service_pack/spp/index.aspx の「重要な注意」セクションを参照してください。

管理対象および監視対象デバイスのファームウェアの最小要件

HPE OneView がデバイスを検出してそのタイプを判別するには、**最小ファームウェアバージョンが必要**です。これは、**アクティブ管理または監視に必要なファームウェアバージョン**とは異なります。検出のみのレベルのファームウェアを搭載したデバイスは、SPP を使用して最小要件にアップグレードできます。デバイスを HPE OneView に管理対象として追加すると、ファームウェアコンポーネントがアップグレードされます。監視対象のデバイスや、ファームウェアバージョンが HPE OneView 検出に必要なバージョン

より古いデバイスの場合は、ファームウェアバージョンを HPE OneView の外で手動で最小要件にアップデートする必要があります。

注記: ご使用のハードウェアが利用可能なすべての管理機能を活用するために最新かつ最も強力なファームウェアを搭載するには、最新の SPP をダウンロードし、それをファームウェアレポジトリに追加します。

エンクロージャーとサーバーを管理対象として追加するときに、Onboard Administrator モジュール、インターコネクトモジュール、および iLO モジュールに対してファームウェアベースラインを指定できません。

表 2: デバイスの検出に必要な最小ファームウェアバージョン

デバイス	ファームウェアのバージョン
HPE Superdome Flex Rack Management Controller	3.0.512 ²
HPE Virtual Connect	4.63
HPE BladeSystem Onboard Administrator	3.00 ¹
iLO 5 (Gen10 サーバー用)	1.10
iLO 4 (Gen9 サーバー用)	2.0
iLO 4 (Gen8 サーバー用)	1.01
iLO 3	1.20

¹ HPE Integrity Superdome X の場合は 6.0.42。

² HPE Superdome Flex サーバーの場合、ファームウェア管理は、ラックマネージャーページおよびサーバープロファイルの外部からサポートされます。

管理対象デバイスだけが自動的にアップデートされます。監視対象デバイスは、以下の最小ファームウェアに一致するように、手動でアップグレードする必要があります。

表 3: アクティブな管理、監視、および移行を行うための最小ファームウェアバージョン

デバイス	ファームウェアのバージョン
HPE Superdome Flex Rack Management Controller	3.0.512
HPE Virtual Connect	4.63 ¹
HPE BladeSystem Onboard Administrator	4.01 ^{2、3、4}
すべてが非 Virtual Connect のインターコネクトを搭載した HPE BladeSystem Onboard Administrator	4.31

表は続く

デバイス	ファームウェアのバージョン
Virtual Connect と非 Virtual Connect が混在する HPE BladeSystem Onboard Administrator	4.31
Gen10 および Gen10 Plus サーバーの場合、iLO 5	1.10 ⁵
iLO 4 (Gen9 サーバー用)	2.03 ⁶
iLO 4 (Gen8 サーバー用)	1.30 ⁶
iLO 3	1.61 ⁶
iLO 2	2.13 ⁷
Intelligent Provisioning (Gen8 サーバー用)	Gen8 AMD システムには 1.61 Gen8 インテルシステムには 1.20
Intelligent Provisioning (Gen9 サーバー用)	2.0
Intelligent Provisioning (Gen10 Plus サーバー用)	3.40
SPP	Service Pack for ProLiant (SPP) を参照してください。
HPE Insight マネジメントエージェント (G6 および G7 サーバーの監視用)	9.20
Emulex コンバージドネットワークアダプター	4.2.401.6 以上

¹ HPE Virtual Connect モジュールのファームウェアに関する注意事項を参照してください。

² 監視サポートのみ。管理対象サポートに必要な最小ファームウェアのバージョンは 4.31 です。

³ HPE Integrity Superdome X の場合は 6.0.42。

⁴ ファームウェアバージョンが 4.70 以降の Onboard Administrator では、スマートカードを使用した Two-Factor 認証の一形態である CAC 認証がサポートされています。HPE OneView は、CAC 認証または **Two-Factor 認証** が有効になっているときは、Onboard Administrator と通信できません。

⁵ HPE OneView 4.1 以降は、**本番環境** または **高セキュリティ** のいずれかのセキュリティ状態を使用するように構成されている場合に iLO 5 をサポートします。iLO セキュリティ状態の設定の詳細については、iLO ユーザーインターフェイスまたは iLO マニュアルを参照してください。

⁶ HPE OneView 4.1 以降は、iLO の標準の暗号化 (デフォルト) 設定または **強制 AES/3DES 暗号化** 設定を使用するように構成されている場合に、iLO 3 と iLO 4 をサポートします。

注記: HPE OneView は、アプライアンスにアップロードされた SPP ファームウェアバンドルを使用して、完全管理のために必要な最小バージョンにこれらのデバイスのファームウェアを自動的にアップデートします。

⁷ 監視サポートのみ。

HPE Virtual Connect モジュールのファームウェアに関する注意事項

- それ以前のバージョンの HPE Virtual Connect ファームウェアがインターコネクต์に組み込まれている場合は、Hewlett Packard Enterprise では Virtual Connect Support Utility (VCSU) を使用してファームウェアをバージョン 4.63 にアップデートしてから、デバイスをアプライアンスに追加することをお勧めします。
- HPE OneView は、最小ファームウェアバージョンの 4.63 がインストールされた HPE Virtual Connect ファイバーチャネルモジュールを管理および構成できます。それ以前のファームウェアバージョンが組み込まれたモジュールをアプライアンスに追加すると、ファームウェアアップデートの対象としてフラグが設定されます。UI で **論理インターコネクต์ > アクション > ファームウェアのアップデート** を使用してインターコネクต์ファームウェアをアップデートするまで、フラグが設定されたモジュールは管理対象外の状態のままです。
- HPE OneView VC の移行では、CNSA 暗号化に制限されているか、Two-Factor 認証が有効になっている Virtual Connect Manager ドメインの移行はサポートされていません。
- 通知** : Virtual Connect から HPE OneView への移行マネージャーは、今後のリリースで製品から削除されます。

サポートされる Smart Update Tools

Smart Update Tools (SUT) と Integrated Smart Update Tools (iSUT) は、OS を実行している管理対象サーバーにインストールするソフトウェアユーティリティで、HPE OneView で使用して、ファームウェアおよびドライバーのアップデートをステージング、インストール、およびアクティブ化します。

注記: 高セキュリティ/FIPS/CNSA モードでは、SUT 2.4.0.0 以降を使用します。

表 4: SUT の使用

サーバー	ホスト (ハイパーバイザー OS)	推奨される SUT モード	SUT タイプ	最小推奨バージョン
Gen8	Windows および Linux	AutoStage	Windows および Linux 用の iSUT	2.0.1
Gen8	ESXi (Web リリース)	AutoDeploy	ESXi 用の SUT	2.0.1
Gen9	Windows および Linux	AutoStage	Windows および Linux 用の iSUT	2.3.0 以上
Gen9	ESXi (Web リリース)	AutoDeploy	ESXi 用の SUT	2.3.0
Gen10	Windows、Linux、および ESXi	AutoStage ¹	Windows、Linux、および ESXi 用の iSUT	2.4.0 以上

¹ ハイパーバイザークラスタープロファイルのローリングアップデートを使用する場合、**AutoStage** はサポートされません。推奨される SUT モードは **AutoDeploy** です。

ラックマネージャーの HPE OneView 管理対象 Superdome Flex ファームウェアのアップデート

HPE OneView 5.0 以降では、ラックマネージャーの Superdome Flex ファームウェアをアップデートできるようになりました。ラックマネージャーの最低限必要なファームウェアバージョンは 2.5.x です。ファームウェア管理は、ラックマネージャーページおよびサーバープロファイルの外部からサポートされます。

以下に示すシナリオでは、ラックマネージャーを追加した後に、ファームウェアアップデートを手動で (HPE OneView の外部で) 実行する必要があります。

- ・ バージョン 2.3.x または 2.4.98 からバージョン 2.5.x へのファームウェアアップデート
- ・ バージョン 2.3.x からバージョン 2.4.98 へのファームウェアアップデート

サポートされるインターネットプロトコル (IP) のバージョン

HPE OneView アプライアンスでは、2つの異なる IP ネットワークモードをサポートしています。

- ・ デフォルトでは IPv4
- ・ IPv6

これらのネットワークモードの詳細については、[HPE OneView インストールガイド](#)を参照してください。

IPv4 モード

IPv4 モードでは、HPE OneView のすべての管理機能をサポートしています。

HPE OneView アプライアンスまたは管理対象デバイス	IPv4 (必須またはオプション)	IPv6 (必須またはオプション)
HPE OneView アプライアンス	必須	オプション
管理対象デバイス	必須	オプション
HPE Superdome Flex サーバーシステム	オプション	オプション

IPv6 モード

IPv6 モードでは、HPE OneView の機能が一部サポートされていない場合があります。サポート制限には、例外が示されます。

HPE OneView アプライアンスまたは管理対象デバイス	IPv4 (必須またはオプション)	IPv6 (必須またはオプション)
HPE OneView アプライアンス	無効	必須
管理対象デバイス	オプション	必須
HPE Superdome Flex サーバーシステム	オプション	必須

- ❗ **重要:** アプライアンスの初期セットアップ中にネットワークパラメーターを構成する際に、アプライアンスのネットワークモードを設定できます。IPv4 が有効の場合、アプライアンスは IPv4 モードになります。IPv4 が無効の場合、アプライアンスは IPv6 モードになります。初期セットアップ手順が完了したら、アプライアンスのネットワークモードは、工場出荷時設定に完全にリセットしない限り変更はできません。このような制限があるため、IPv4 モードで実行されているアプライアンスを、アップグレード後であっても IPv6 に切り替えることはできません。

サポートの制限

- ・ IPv6 アドレスがサポートされるのは、管理対象となるラックマウント型サーバーおよび HPE Superdome Flex サーバーサーバーに限定されます。c7000 エンクロージャーおよびブレードは、アプライアンスでエンクロージャーの追加オプションが有効になっていても、サポートされません。
- ・ HPE OneView にサーバーを追加する場合は、IPv6 アドレスを範囲指定することはできません。
- ・ HPE OneView は、IPv6 用に構成されていると、IPv4 ネットワーク上のデバイス間の通信を送受信できません。
- ・ IPv6 モードではストレージシステムはサポートされません。
- ・ Remote Support は、DL サーバーの IPv6 アドレスを持つ HPE OneView アプライアンスで利用できません。
- ・ バックアップは、同じネットワークモードを使用してアプライアンスにのみリストアできます。
- ・ IPv6 は Virtual Connect の移行をサポートしません。

サポートされる Web ブラウザーとバージョン

以下の Web ブラウザーは、HPE OneView で使用するためにテストされ、適格とされました。

- ・ Microsoft Internet Explorer バージョン 11
- ・ Microsoft Edge
- ・ Mozilla Firefox バージョン 64.x
- ・ Mozilla Firefox ESR (延長サポート版) バージョン 52.x
- ・ Google Chrome バージョン 71.x

❗ **重要:** Hewlett Packard Enterprise は、サポートされる Web ブラウザーの新しいバージョンおよびアップデートをサポートできるように最大限努力します。ただし、新しいバージョンが予想どおりに動作しない場合があります。HPE OneView の最新のリリースをサポートしていない Web ブラウザーでは問題が発生する可能性があります。Web ブラウザーがリリースされた時点から、HPE OneView がブラウザーをサポートするようになるまでに、間隔が生じる場合もあります。このような場合、Hewlett Packard Enterprise は、HPE OneView の次のメンテナンスリリースまたはフルリリースで新しいブラウザーバージョンをサポートできるように取り組みます。

テストされていない新しいバージョンの Web ブラウザーに関する問題が発生した場合は、認定サポート担当者にレポートを提出してください。場合によっては、前のバージョンのサポート対象の Web ブラウザーに戻すことが、短期的な解決策となる可能性があります。

サポートされる HPE OneView REST API バージョン

HPE OneView のこのリリースでサポートされている REST API バージョンの完全なリストについては、[HPE OneView API リファレンスガイド](#)の概要セクションを参照してください。

HPE OneView の今回のリリースでは、次の表にリストされている REST API のバージョンをサポートします。4.2 (API バージョン 1000) より前のリリースはサポートされていません。

HPE OneView リリース	REST API バージョン
5.0	1200
5.2	1600
5.3	1800
5.4	2000

次の API バージョンは非推奨で、これらのバージョンのサポートは次のリリースで削除される予定です。

HPE OneView リリース	REST API バージョン
4.2	1000

画面解像度

- ・ 最小解像度 : 1024 x 768
- ・ 推奨の解像度 : 1280 x 1024 以上



サポートされるハードウェアおよびソフトウェア

注記: HPE OneView 4.1 以降では、MD5 デジタル署名を使用した管理対象デバイス証明書はサポートされません。

注記: サポートされている HPE ストレージ製品構成の詳細については、<http://www.hpe.com/storage/spock> を参照してください。

❗ **重要:** HPE OneView は、サポートされないコンポーネントを含んでいるエンクロージャーを管理または監視しないため、サポートされていないコンポーネントが検出された場合に警告メッセージが表示されます。

管理対象の ProLiant BL および WS サーバースレード

以下のサーバースレードモデルは、管理対象として追加することができます。

- ・ BL420c
- ・ BL460c
- ・ BL465c
- ・ BL490c
- ・ BL620c
- ・ BL660c
- ・ BL685c
- ・ WS460c (シングル幅およびダブル幅のブレード)

管理対象の ProLiant DL ラックマウント型サーバー

以下のラックマウント型サーバーモデルは、管理対象として追加することができます。

- ・ DL20
- ・ DL60
- ・ DL60e
- ・ DL80
- ・ DL80e
- ・ DL120
- ・ DL160
- ・ DL180
- ・ DL320e

- ・ DL320e v2
- ・ DL320p
- ・ DL325
- ・ DL360
- ・ DL360e
- ・ DL360p
- ・ DL380
- ・ DL380e
- ・ DL380p
- ・ DL380z
- ・ DL385
- ・ DL385p
- ・ DL560
- ・ DL580

管理対象の ProLiant DX サーバー

以下の DX サーバーモデルは、管理対象として追加することができます。

- ・ DX170r
- ・ DX190r
- ・ DX360
- ・ DX380
- ・ DX560
- ・ DX4200
- ・ DX385

管理対象の ProLiant ML サーバー

以下の ML サーバーモデルは、管理対象として追加することができます。

- ・ ML30
- ・ ML110
- ・ ML350

管理対象の ProLiant XL サーバー

以下の XL サーバーモデルは、管理対象として追加することができます。



- ・ XL170r (Apollo 2000)
- ・ XL190r (Apollo 2000)
- ・ XL230a (Apollo 6000)
- ・ XL230b (Apollo 2000)
- ・ XL230k (Apollo 2000)
- ・ XL250a (Apollo 2000)
- ・ XL260a (Apollo 2000)
- ・ XL2x260w (Apollo 6000w)
- ・ XL270d (Apollo 6500)
- ・ XL280d (Apollo 6500)
- ・ XL420 (Apollo 4200)
- ・ XL450 (Apollo 4510)
- ・ XL225n

管理対象 Superdome Flex サーバー

Superdome Flex サーバーは次を搭載しています。

- ・ インテル®Xeon®スケーラブルプロセッサ 62XX/82XX およびファームウェアバージョン 3.0.512 以降。
- ・ インテル®Xeon®スケーラブルプロセッサ 61XX/81XX およびファームウェアバージョン 3.0.512 以降。

サーバーハードウェア管理機能

アプライアンスは、管理対象として追加された場合のサーバーハードウェアで以下の機能をサポートします。



機能

サポートされるサーバーハードウェア

	HPE ProLiant BL G7 ^{1,2}	HPE ProLiant BL Gen8/Gen9/Gen10 および HPE ProLiant WS Gen8/Gen9/Gen10	HPE ProLiant DL Gen8/Gen9/Gen10、HPE ProLiant ML Gen9、および HPE ProLiant XL Gen9/Gen10	HPE Superdome Flex サーバー (ラックマネージャー) ^{3,4}
サーバーの電源のオン/オフ	✓	✓	✓	✓ ⁵
インベントリデータの表示	✓	✓	✓	✓
電源、冷却、および使用率の監視 ⁶	✓	✓	✓	
ヘルスおよびアラートの監視	SNMP エージェントを手動でインストールおよび構成した場合	✓ ⁷	✓ ⁷	✓
	注記: SNMP エージェントは ESXi では使用できません。			
iLO のリモートコンソールの起動 ⁸	✓	✓	✓	
iLO Web インターフェイスへの SSO (シングルサインオン)	✓	✓	✓	
アプライアンスに追加するときの、ファームウェアのサポートされる最小バージョンへの自動アップグレード (iLO)	✓	✓	✓	
ラックのビジュアル化および編集	✓	✓	✓	
サーバーハードウェアタイプの自動検出	✓	✓	✓	✓

表は続く

機能

サポートされるサーバーハードウェア

	HPE ProLiant BL G7 ^{1,2}	HPE ProLiant BL Gen8/Gen9/Gen10 および HPE ProLiant WS Gen8/Gen9/Gen10	HPE ProLiant DL Gen8/Gen9/Gen10、HPE ProLiant ML Gen9、および HPE ProLiant XL Gen9/Gen10	HPE Superdome Flex サーバー (ラックマネージャー) ^{3,4}
Remote Support ⁹		✓ ¹⁰	✓	✓ ¹¹
サーバープロファイル機能：				
BIOS 設定		✓	✓ ¹²	✓ ^{13,14}
ワンタイムブート		✓	✓	✓
UID ライトのサポート		✓ ²¹	✓ ²¹	
ファームウェア		✓	✓	✓ ¹⁵
ネットワークへの接続	✓	✓	✓	
ブート順序 ¹⁶	✓	✓	✓ ^{12,17}	
ローカルストレージ ¹⁸		✓	✓ ^{19,20}	
SAN ストレージ	✓	✓	✓	
iLO の構成		✓	✓	

¹ アプライアンスは、ダブルワイド、倍密度の一部の ProLiant G7 サーバーブレードモデルに関して、サポート対象外というステータスを報告することがあります。これは、アプライアンスがそのモデルを管理できないことを意味します。

² SPP 2017.04.0 の時点で、すべての G7 サーバーはベースライン (「フリーズ」) になり、Gen10 からサポート対象外となります。

³ HPE Superdome Flex サーバーの場合、ブート設定からセキュアブート設定を有効または無効にできます。UEFI は、Superdome Flex サーバーでサポートされている唯一のブートモードです。管理ブート順序はサポートされません。

⁴ マネージャーセクションのラックマネージャーページにあるハイパーリンクでラック管理コントローラー (RMC) の Web インターフェイスを起動します。

⁵ サーバーハードウェアの適切なシャットダウンは、ファームウェアバージョン 3.0.x 以降の HPE Superdome Flex サーバーでサポートされています。

⁶ すべてのサーバーが電源、冷却、および使用率の監視をサポートしているわけではありません。

⁷ 最適な情報を得るには、サーバー OS に Agentless Management Service (AMS) をインストールします。

⁸ リモートコンソールは、OS の起動時まで動作します。OS の起動後、HPE ProLiant DL のリモートコンソールでは iLO Advanced ライセンスが必要になります。

⁹ iLO バージョン 2.1 以降が必要です。

¹⁰ HPE ProLiant WS Gen8 はサポートされていません。

- 11 HPE Superdome Flex サーバーの場合、Remote support 操作はラックマネージャーのページでサポートされています。
- 12 HPE ProLiant DL580 Gen8 はサポートされていません。ローカルストレージをサポートしているモデルのリストについては、[ローカルストレージをサポートする ProLiant DL サーバー](#)を参照してください。
- 13 HPE OneView バージョン 5.0 からラックマネージャーファームウェアバージョン 3.0.512 以降について、管理対象状態が、HPE Superdome Flex サーバーハードウェアでサポートされるようになりました。ラックマネージャは、監視対象状態で引き続きインポートされます。ただし、サーバーハードウェアは管理対象状態でインポートされます。このサポートにより、サーバープロファイルを紹介して Superdome Flex サーバーハードウェアの BIOS 設定を構成および編集できます。3.0.512 より前のファームウェアバージョンの場合、サーバーハードウェアは監視対象状態で HPE OneView にインポートされます。
- 14 BIOS 設定の整合性チェックはサポートされていません。
- 15 HPE Superdome Flex サーバーの場合、ファームウェア管理は、ラックマネージャーページおよびサーバープロファイルの外部からサポートされます。
- 16 2014 年 8 月 27 日以前の BL Gen9 サーバー ROM の制限のため、ブートモードが UEFI または UEFI 最適化に設定されている場合、プライマリブートデバイスを設定することはできません。ブート順序の管理を選択すると、対応するプロファイルにこの状況を示す警告が表示されます。
- 17 HPE ProLiant XL260a は UEFI クラス 3 サーバー (UEFI ブートのみサポート) であるためブート順序はサポートされていません。
- 18 内蔵アレイコントローラーでのみサポートされます。M.2 ドライブは、特定の構成でサポートされています。詳細については、[サポートされているストレージコントローラー](#)を参照してください。
- 19 HPE ProLiant DL Gen8 および Gen9 サーバーハードウェアの選択モデルがローカルストレージをサポートします。ローカルストレージをサポートしているモデルのリストについては、[ローカルストレージをサポートする ProLiant DL サーバー](#)を参照してください。
- 20 ローカルストレージは、XL170r、XL190r、および XL260w Gen10 サーバーではサポートされていません。また、ローカルストレージは、XL260w Gen9 サーバーではサポートされていません。
- 21 Gen10 サーバーのみをサポートします。

監視対象サーバーハードウェア

ラックマウント型サーバーおよびブレードサーバーを追加して、ハードウェアを監視することができます。管理対象としてリストされたサーバーは、すべて監視可能です。

監視対象としてサポートされるサーバーは、以下のとおりです。

- ・ ハーフハイトまたはフルハイトのすべての ProLiant BL G6 (iLO 2 を搭載)
- ・ ProLiant BL680c G7
- ・ すべての ProLiant DL G6 (iLO 2 を搭載)
- ・ すべての ProLiant DL G7
- ・ G6 から Gen10 までの ProLiant ML
- ・ Gen10 以前のすべての ProLiant XL
- ・ HPE BL920s Gen8 または Gen9
- ・ HPE Superdome Flex サーバー

注記: BL220c G7 はサポートされません。

ML10 では監視はサポートされません。

サーバーハードウェア監視機能

サーバーハードウェアを監視するときに、アプライアンスは以下の機能をサポートします。

機能	監視対象サーバーハードウェア				
	ProLiant BL および DL G6 (iLO 2 搭載)	ProLiant BL および DL G7	ProLiant BL、DL、ML、XL Gen8/Gen9/Gen10	ProLiant BL920 Gen8/Gen9 (HPE BladeSystem Superdome)	HPE Superdome Flex サーバー (ラックマネージャー) ⁸
サーバーの電源のオン/オフ	✓	✓	✓	✓	✓ ⁹
インベントリデータの表示	✓	✓	✓	✓	✓
電源、冷却、および使用率の監視 ¹		✓	✓	✓ ²	
ヘルスおよびアラートの監視	SNMP エージェントを手動でインストールおよび構成した場合 ³	SNMP エージェントを手動でインストールおよび構成した場合 ³	✓	✓	✓
iLO のリモートコンソールの起動		✓	✓		
Remote Support			✓ ⁴		✓ ⁷
SSO (シングルサインオン)		✓ ⁵	✓ ⁵	✓ ⁶	

¹ すべてのサーバーが電源、冷却、および使用率の監視をサポートしているわけではありません。

² 使用率はサポートされていません。

³ SNMP エージェントは ESXi 5.x および 6.x では使用できません。

⁴ ProLiant ML10 は Remote support ではサポートされません。

⁵ iLO Web インターフェイスに対する SSO。

⁶ Onboard Administrator (OA) に対する SSO。OA ファームウェアバージョン 8.4.84 以降が必要です。

⁷ HPE Superdome Flex サーバーでは、ラックマネージャーページから Remote support 操作がサポートされています。

⁸ マネージャーセクションのラックマネージャーページにあるハイパーリンクでラック管理コントローラー (RMC) の Web インターフェイスを起動します。

⁹ サーバーハードウェアの適切なシャットダウンは、ファームウェアバージョン 3.0.x 以降の HPE Superdome Flex サーバーでサポートされています。

HPE BladeSystem エンクロージャー

c7000 エンクロージャーでは、Remote support のご利用が可能です。

管理対象または監視対象として追加できるエンクロージャーは、以下のとおりです。

- ・ HPE BladeSystem c7000 エンクロージャー
- ・ HPE BladeSystem c7000 エンクロージャー (RoHS 準拠)
- ・ HPE BladeSystem c7000 Platinum エンクロージャー (Platinum)

注記: HPE BladeSystem c3000 エンクロージャーはサポートされていません。

以下のエンクロージャーは、監視対象のみとして追加できます。

HPE BladeSystem Superdome エンクロージャー

詳細情報

- ・ [HPE BladeSystem c7000 エンクロージャー](#)
- ・ [HPE BladeSystem Superdome エンクロージャー](#)
- ・ [HPE Superdome Flex ラックマネージャー](#)

管理対象ストレージアレイ

このセクションでは、HPE OneView ストレージ自動化機能でサポートされているストレージシステムのバージョンについて説明します。<http://www.hpe.com/storage/spock> を参照して相互運用性について確認し、ご使用の環境でストレージシステムを構成する際に従う必要のあるサポート要件を確認してください。

- ・ HPE 3PAR
 - リストされている StorServ 7000、8000、9000、10000、20000、および 20000 R2 ファミリプラットフォームでサポートされているファームウェアバージョンは、以下のとおりです。
 - 3PAR OS 3.1.3 MU1、MU2、MU3
 - 3PAR OS 3.2.1 MU1、MU2、MU3、MU4、MU5
 - 3PAR OS 3.2.2 MU1、MU2、MU3、MU4、MU6
 - 3PAR OS 3.3.1 EGA、MU1、MU2、MU3、MU4
 - 3PAR OS 3.3.1 MU5
 - 3PAR OS 3.3.2
- ・ HPE StoreVirtual

- StoreVirtual 3200 LHOS 13.x
- StoreVirtual VSA LHOS 12.x
- StoreVirtual LHOS 13.6
- ・ HPE Nimble Storage
 - Nimble OS 4.5
 - Nimble OS 5.0
 - Nimble OS 5.1
 - Nimble OS 5.2
- ・ ファームウェアバージョン 4.0、4.1、および 4.2 の HPE Primera

管理対象の SAN スイッチと SAN マネージャー

このセクションでは、HPE OneView で管理する SAN 自動化機能（自動ゾーニングを含む）でサポートされている SAN マネージャーの最小バージョンについて説明します。<http://www.hpe.com/storage/spock> を参照して相互運用性について確認し、ご使用の環境で SAN スイッチを構成する際に従う必要のあるサポート要件を確認してください。

HPE FlexFabric スイッチ

HPE FlexFabric 5700 製品（HPE Comware ソフトウェアバージョン 7.1.045 リリース 2422 搭載）：

- ・ HPE FlexFabric 5700 40XG 2QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5700 32XGT-8XG 2QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5700 48G-4XG 2QSFP+ スイッチ

HPE FlexFabric 5900 製品（HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.045 リリース 2422.x 搭載）：

- ・ HPE FlexFabric 5900CP 48XG 4QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5900AF 48XG 4QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5900AF 48XGT 4QSFP+ スイッチ

HPE FlexFabric 5930 製品（HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.045 リリース 2422.x 搭載）：

- ・ HPE FlexFabric 5930 32QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5930 2 スロット 2QSFP+ スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5930 4 スロット スイッチ

HPE FlexFabric 5940 製品（HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.070 リリース 2609H01 搭載）：

- ・ HPE FlexFabric 5940 48SFP+ 6QSFP28 スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5940 48XGT 6QSFP28 スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5940 48XGT 6QSFP+ スイッチ



- ・ HPE FlexFabric 5940 48SFP+ 6QSFP+スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5940 32QSFP+スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5940 2-スロットスイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5940 4-スロットスイッチ

HPE FlexFabric 5710 スイッチ (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.070、リリース R2612P06 搭載)

- ・ HPE FlexFabric 5710 48SFP+ 6QSFP+スイッチまたは 2QSFP28 スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5710 48XGT 6QSFP+スイッチまたは 2QSFP28 スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5710 24SFP+ 6QSFP+スイッチまたは 2QSFP28 スイッチ

HPE FlexFabric 5950 製品 (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.070、R6301 搭載)

- ・ HPE FlexFabric 5950 48SFP28 8QSFP28 スイッチ
- ・ HPE FlexFabric 5950 4 スロットスイッチ

HPE FlexFabric 79xx シャーシスイッチ (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.070 リリース R2713 搭載) :

- ・ HPE FlexFabric 7904 スイッチシャーシ
- ・ HPE FlexFabric 7910 スイッチシャーシ

HPE FlexFabric 5980 スイッチ (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.070、リリース R2713 搭載) :

HPE FlexFabric 5980 48SFP+ 6QSFP28 スイッチ

HPE FlexFabric 129xxx シャーシスイッチ (HPE Comware ソフトウェア最小バージョン 7.1.070 リリース 1138.x 搭載) :

- ・ HPE FlexFabric 12916 スイッチ AC シャーシ
- ・ HPE FlexFabric 12910 スイッチ AC シャーシ

Brocade スイッチ

Brocade Network Advisor

Brocade Network Advisor (BNA) の SAN マネージャータイプは、HPE Network Advisor または (BNA) ソフトウェアの次のバージョンを使用した自動化された SAN ゾーニング操作をサポートします。

- ・ 12.1.4、12.1.5、12.1.6
- ・ 12.3.1、12.3.3、12.3.4
- ・ 12.4、12.4.1、12.4.2、12.4.3、12.4.4
- ・ 14.0、14.0.1、14.0.2、14.0.3
- ・ 14.2.1、14.2.2

- ・ 14.3.1
- ・ 14.4.2、14.4.3、14.4.4、14.4.5

注記: BNA 14.2.0 および 14.4.1 は、全ての HPE OneView リリースでは正常に動作しないことが確認されています。

Brocade FOS スイッチ

Brocade FOS スイッチの SAN マネージャータイプは、次のバージョンの FOS ファームウェアを実行している Brocade SAN スイッチに接続している自動化された SAN ゾーニング操作をサポートします。

- ・ 8.2.0b 以降
- ・ 9.0

注記: HPE OneView FOS バージョンの要件は、HPE OneView SAN マネージャースイッチにのみ適用されます。ファブリック内の他のスイッチは、Brocade によりサポートされている以前の FOS ファームウェアレベルを実行できます。

Cisco Nexus スイッチ

Cisco Nexus 5500/5600/6000 モデル — NX-OS 6.0、7.0、7.1、7.2、7.3(8)N1(1)、8.3 :

- ・ Cisco Nexus 5548UP
- ・ Cisco Nexus 5596UP
- ・ Cisco Nexus 5672UP
- ・ Cisco Nexus 6001P
- ・ Cisco Nexus 6004EF

Cisco MDS スイッチ

Cisco MDS 9xxx モデル 8、16、32 Gb FC SAN スイッチ - NX-OS 6.2、8.1、8.2、8.3、8.4(1a)、8.4(2a)

ネットワークの LOM カードおよびメザニンカード

次のアダプターがサポートされています。アダプターがリストにない場合は、**非管理サポート**にあります。非管理サポートとは、そのアダプターはサーバーに搭載され、必要に応じて動作できるが、HPE OneView によって管理されないことを意味します。アダプターが接続されているモデルによっては、まだアダプターが使用可能な場合があります。たとえば、インターコネクトモジュールです。アプライアンスは、アプライアンス UI のサーバーハードウェアまたはサーバーハードウェアタイプ画面で、アダプターの存在を報告します。

注記: これらのコンポーネントを外部ストレージで使用する場合は、以下のコンポーネントを外部ストレージで使用する際の詳細とその他の相互運用性およびサポート要件に関する情報について、<http://www.hpe.com/storage/spock> を参照してください。

注記: プロファイルに関連付けられているファームウェアバンドルに管理対象外のアダプターのアップデートが含まれている場合、サーバープロファイルによって管理されるサーバー内の管理対象外のアダプターをアップデートできます。

サポート対象の LOM カードとメザニンカード

FlexFabric アダプター

- ・ HPE FlexFabric 10Gb 2 ポート 534M アダプター¹
- ・ HPE FlexFabric 10Gb 2 ポート 554M アダプター
- ・ HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 630M アダプター¹
- ・ HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 650M アダプター
- ・ HPE FlexFabric 10Gb 2 ポート 534FLB アダプター¹
- ・ HPE FlexFabric 10Gb 2 ポート 536FLB アダプター¹
- ・ HPE FlexFabric 10Gb 2 ポート 554FLB アダプター
- ・ HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 630FLB アダプター¹
- ・ HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 650FLB アダプター
- ・ HPE FlexFabric 10Gb デュアルポート NC551i コンバージドネットワークアダプター
- ・ HPE FlexFabric 10Gb デュアルポート NC553i コンバージドネットワークアダプター

¹ iSCSI CHAP の名前は最大 128 文字です。

Ethernet および Flex-10 Ethernet アダプター

- ・ HPE Flex-10 10Gb 2 ポート 530M アダプター
- ・ HPE Flex-10 10Gb 2 ポート 530FLB アダプター
- ・ HPE Flex-10 10Gb 2 ポート 552M アダプター
- ・ HPE Ethernet 10/25Gb 2 ポート 631FLR-SFP28 アダプター
- ・ HPE Ethernet 10/25Gb 2 ポート 640FLR-SFP28 アダプター

ファイバーチャネルアダプター

- ・ HPE QMH2572 8Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター、c-Class BladeSystem 用
- ・ HPE QMH2672 16Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター、c-Class BladeSystem 用
- ・ QLogic QMH2562 8Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター for BladeSystem
- ・ HPE LPe1205A 8Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター for BladeSystem
- ・ HPE LPe1605 16Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター for BladeSystem
- ・ Emulex LPe1205-HPE 8Gb ファイバーチャネルホストバスアダプター for BladeSystem

インターコネク トモジュール

注記: 外部ストレージでこれらのコンポーネントを使用する場合は、<http://www.hpe.com/storage/spock> を参照して相互運用性について確認し、ご使用の環境でこれらを構成する際はサポート要件も確認してください。



表 5: サポートされるインターコネクトモジュール

デバイス	フルサポート	監視対象サポ ート c7000 ¹	非管理サポ ート c7000 ²	非管理サポ ート Superdome ⁵
HPE Virtual Connect FlexFabric-20/40 F8 モジュール	✓			
HPE Virtual Connect FlexFabric-20/40 F8 TAA モジュール	✓			
HPE Virtual Connect FlexFabric 10Gb/24 ポートモジュール	✓			
HPE Virtual Connect Flex-10 10Gb Ethernet モジュール ⁶	✓			
HPE Virtual Connect Flex-10/10D モジュール	✓			
HPE Virtual Connect 8Gb 20 ポートファイバーチャンネルモジュール	✓			
HPE Virtual Connect 8Gb 24 ポートファイバーチャンネルモジュール	✓			
HPE Virtual Connect 16Gb 24 ポートファイバーチャンネルモジュール ⁴	✓			
HPE Virtual Connect 16Gb 24 ポートファイバーチャンネル TAA モジュール ⁶	✓			
HPE BladeSystem 向け Cisco Fabric Extender ³			✓ ⁷	
HPE 1/10 Gb Ethernet スイッチパススルーモジュール			✓	✓
HPE 6127XLG ブレードスイッチ			✓	✓
HPE 6125XLG ブレードスイッチ			✓	✓
HPE 6120G/XG ブレードスイッチ			✓	✓
HPE BladeSystem 向け Brocade 16Gb SAN スイッチ c-Class			✓	✓
BladeSystem 向け HPE 4X FDR InfiniBand スイッチ c-Class			✓	✓
その他の HPE および他社製インターコネクトモジュールすべて			✓	

¹ 基本的な電源およびヘルスの監視に使用できます。

² 非管理サポートとは、そのデバイスはエンクロージャーに搭載したままで動作できるが、HPE OneView によって管理されないことを意味します。

³ Cisco Nexus B22 Blade Fabric Extender for HPE と呼ばれます。

⁴ このモジュールでは、部品番号 751465-B21 および P08475-B21 がサポートされます。

⁵ このモジュールでは、部品番号 778720-B21 および P08476-B21 がサポートされます。

⁶ HPE Virtual Connect Flex-10 イーサネットモジュールのサポート終了は 2013 年に発表されおり、サポートは 2018 年 7 月に終了しました。HPE OneView は、HPE Virtual Connect Flex-10 イーサネットモジュールでサポートされる VC ファームウェアを 4.75 以前に制限しています。

⁷ HPE BladeSystem 用の管理対象 Cisco Fabric Extender は、HPE OneView でサポートされなくなりました。このモジュールは、管理対象外モジュールとしてのみサポートされます。

インターコネクットの要件

すべてのインターコネクットモジュールに対する要件

- 各 VC Enet モジュールでの 10GBase-T SFP+ トランシーバー数の上限については、[Hewlett Packard Enterprise の Web サイト](#)で、Virtual Connect リリースノートを参照してください。
- 水平方向のペアとなるインターコネクットモジュール（たとえば、エンクロージャーのベイ 1 とベイ 2）は、同じモデルである必要があります。ペアとなるベイを未装着にすることもできますが、水平方向の冗長性が失われます。

c-Class BladeSystem 用の HPE Virtual Connect FlexFabric-20/40F8 モジュール、c-Class BladeSystem 用 HPE Virtual Connect 16Gb 24 ポートファイバーチャネルモジュール、c-Class BladeSystem 用の Virtual Connect 16Gb 24 ポートファイバーチャネル TAA モジュールの場合

- お客様は、Virtual Connect、ファイバーチャネルなどの c-Class インターコネクットデバイスの Remote support を管理、監視、および提供できるようになりました。

OneView Remote Support によってサポートされるインターコネクットを以下に示します。

- c-Class BladeSystem 用 HPE Virtual Connect FlexFabric-20/40 F8 モジュール
- HPE Virtual Connect 16Gb 24 ポート ファイバーチャネルモジュール for c-Class BladeSystem

HPE Virtual Connect 8Gb 20 ポートファイバーチャネルモジュール、HPE Virtual Connect 16Gb 24 ポートファイバーチャネルモジュール、および HPE Virtual Connect 8Gb 24 ポートファイバーチャネルモジュールに対する要件

- インターコネクットモジュールは、ファブリック接続用のみとする必要があります。
- インターコネクットのファームウェアバージョンは、[管理対象および監視対象デバイスのファームウェアの最小要件](#)に記載されているファームウェアバージョン以上である必要があります。
- インターコネクットモジュールをベイ 1 または 2 に配置することはできません。

HPE Virtual Connect FlexFabric - 20/40 F8 モジュールに対する要件

- インターコネクットモジュールのエンクロージャー内に 10 個のファンが必要です。
- 1 つのエンクロージャー内に 6 個を超える HPE Virtual Connect FlexFabric - 20/40 F8 モジュールを挿入しないでください。

- ・ 4x10G 操作用に構成されている場合、QSFP +ポートをリモート側の4つのSFP+ポートに多重化するために、付属の分岐ケーブルで接続可能なモジュールを取り付ける必要があります。
- ・ HPE Virtual Connect FlexFabric-20/40 F8 モジュールは、次のSKUのc7000エンクロージャーでサポートされています。5XXXXX-B21、6XXXXX-B21、および7XXXXX-B21。

FCoEは、以下のインターコネクトおよび対応するポート上でサポートされます。

- ・ HPE Virtual Connect FlexFabric 10Gb/24 ポート、ポート X1-X4 のみ
- ・ HPE Virtual Connect Flex-10/10D Ethernet モジュール、ポート X1-X10
- ・ HPE Virtual Connect FlexFabric-20/40 F8 モジュール、ポート Q1-Q4、X1-X8

詳細情報

管理対象および監視対象デバイスのファームウェアの最小要件

アダプターおよび HPE Virtual Connect の構成

HPE OneView は、以下のアダプターおよび HPE Virtual Connect モジュールの構成を経由するネットワーク接続をサポートしています。

表 6: サポートされた FLB/LOM/メザニンアダプター構成

構成	FlexFabric アダプター	Flex-10 アダプター	イーサネットアダプター
HPE Virtual Connect FlexFabric 20/40 F8 モジュールで、VC f/w 4.50 および HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 650FLB/M アダプターまたは HPE FlexFabric 10GB 2 ポート 556FLB アダプター搭載のもの	物理ポートごとに 8 つの FlexNIC または 7 つの FlexNIC と 1 つの FlexHBA ¹	物理ポートごとに 4 つの FlexNIC (Ethernet のみ)	接続なし
HPE Virtual Connect FlexFabric 10Gb/24 ポートモジュール	物理ポートごとに 4 つの FlexNIC または 3 つの FlexNIC と 1 つの FlexHBA	物理ポートごとに 4 つの FlexNIC (Ethernet のみ)	

表は続く



構成	FlexFabric アダプター	Flex-10 アダプター	イーサネットアダプター
HPE Virtual Connect Flex-10/10D モジュール	物理ポートごとに 4 つの FlexNIC (Ethernet のみ)		
HPE Virtual Connect Flex-10 10Gb モジュール			
Ethernet インターコネクト (外部マネージャー)	2x 物理ポート ²		

¹ 4 つの FlexNIC の内の 1 つは、FCoE (Fibre Channel over Ethernet) を使用してストレージ機能を構成できます。Ethernet は 4 つすべての FlexNIC で使用できます。HPE OneView は、デバイスタイプ、ネットワークまたは VLAN の設定、帯域幅の設定など、サーバープロファイル接続を使用して FlexNIC ネットワーク接続を構成します。

² HPE OneView によって管理されません。HPE OneView は、物理ポートを未構成のデフォルトの状態に維持します。エンクロージャーの隣接 IO ベイで標準の Ethernet インターコネクトまたは Ethernet パススルーモジュールを使用して、ネットワーク接続を行うことができます。

ラックと電源

- ・ HPE Intelligent パワーディストリビューションユニット (ファームウェアバージョン 1.4 以降)
-
- ❗ **重要:** HPE OneView で管理されるすべての iPDU 電力供給デバイスを、2.0.22.12 の最小のファームウェアバージョンにアップグレードします。Hewlett Packard Enterprise は、利用可能な最新のファームウェアのバージョンにアップグレードすることをお勧めします。
-
- ・ HPE Intelligent シリーズラック
 - ・ ソフトウェアおよびファームウェア用 HPE Location Discovery Service (位置情報検出機能) (以下の SKU の ProLiant DL Gen8 ラックマウント型サーバーおよび HPE BladeSystem c7000 エンクロージャー): 5XXXXX-B21、6XXXXX-B21、および 7XXXXX-B21

サポートされるストレージコントローラー

サーバープロファイルのローカルストレージを構成する際、以下の内蔵コントローラーがサポートされません。

- ・ HPE Smart アレイ P220i
- ・ HPE Smart アレイ P230i
- ・ HPE Smart アレイ P244br
- ・ HPE Smart アレイ P246br
- ・ HPE Smart アレイ P420i

- ・ HPE Smart アレイ P440ar
- ・ HPE Smart アレイ P830i
- ・ HPE Smart アレイ P816i-a SR
- ・ HPE Smart アレイ P840ar
- ・ HPE Dynamic Smart アレイ B140i
- ・ HPE Dynamic Smart アレイ B320i
- ・ HPE Dynamic Smart アレイ S100i
- ・ HPE Smart HBA H244br
- ・ HPE Smart HBA H240ar
- ・ HPE Smart HBA H450ar
- ・ HPE Smart アレイ E208i-a SR Gen10
- ・ HPE Smart アレイ P408i-a SR Gen10
- ・ HPE Smart アレイ P204i-b SR Gen10

表 7: サポートされている M.2 ドライブ構成

ストレージコントローラー	M.2 ドライブとフロントドライブがインストール済み	M.2 ドライブだけインストール済み
B140i	すべてのローカルストレージが HPE OneView によって管理されている必要がある	M.2 ドライブが HPE OneView によって管理されている。プロファイルの移動なし
P244br H244br P246br	フロントドライブは HPE OneView によって管理されている M.2 ドライブを HPE OneView 外で手動で管理する必要がある	M.2 ドライブは HPE OneView によって管理されない。HPE OneView 外で手動で管理する必要がある

ローカルストレージをサポートする ProLiant DL サーバー

注記: サポートされている Gen10 サーバーは、すべてローカルストレージをサポートしています。

- ・ DL360
- ・ DL360p
- ・ DL380
- ・ DL380p
- ・ DL560
- ・ DL580

ハイパーバイザーマネージャー

VMware vCenter Server をハイパーバイザーマネージャーとして HPE OneView に登録することができます。このハイパーバイザーマネージャーは、ハイパーバイザーとクラスターを管理するために、ハイパーバイザークラスタープロファイルによって使用されます。

VMware vCenter Server	・ 6.5 Update 2
	・ 6.5 Update 3
	・ 6.7 Update 2
	・ 6.7 Update 3
	・ 7.0

管理対象ハイパーバイザークラスターのハイパーバイザー

ハイパーバイザークラスターのプロファイルを使用して、HPE Virtual Connect をサポートし、HPE OneView によって管理されるサーバー上で実行されるハイパーバイザーのクラスターを管理できます。HPE ProLiant BL ブレードサーバー — Gen8、Gen9、Gen10 が該当します。

クラスターとして管理できるサポート対象のハイパーバイザーは、以下のとおりです。

VMware vSphere ESXi	・ 6.5 Update 2
	・ 6.5 Update 3
	・ 6.7 Update 2
	・ 6.7 Update 3
	・ 7.0

ハイパーバイザークラスターのプロファイルでは OS 展開プランを **None** として指定し、任意の外部ツールを使用してサーバーにハイパーバイザーを展開することができます。外部ツールを使用して展開されるハイパーバイザーは、ハイパーバイザークラスタープロファイルにインポートして管理できます。

ハイパーバイザークラスタープロファイルを使用すると、ハイパーバイザークラスターの拡張または縮小などのライフサイクル操作の管理、構成の変更、整合性チェックやローリングアップデートの実施が可能です。またサーバーノードで無停止ファームウェアアップデートを実行することもできます。

ハイパーバイザーを展開するために、ハイパーバイザークラスターおよび **HPE Insight Control サーバープロビジョニング** を管理する **HPE OneView for VMware vCenter** を使用する場合は、**HPE Insight Control サーバープロビジョニング** の展開プランで構成されるハイパーバイザークラスタープロファイルが HPE OneView に表示されます。HPE OneView のユーザーインターフェイスを使用してこれらのハイパーバイザークラスターのプロファイルを編集することはできません。ただし、ローリングアップデートを使用した不整合の表示および解決、サーバーノードでの無停止のファームウェアアップデートなど、他のライフサイクル操作は管理できます。

vSAN 対応クラスターを展開するか、クラスターの vSAN を有効化するか、展開プランを使用して vSAN クラスターノードを展開、再展開、アップグレードするか、クラスターノードの vSAN VMkernel ポート

を構成します。クラスターまたは ESXi ホスト上の vSAN 構成には、HPE OneView とは関係のないツールを使用する必要があります。

FIPS および CNSA モードでの HPE OneView 仮想アプライアンスのデバイスサポート

以下の表に、連邦情報処理規格 (FIPS) または Commercial National Security Algorithm (CNSA) モードに切り替えたときに HPE OneView 仮想アプライアンスによって管理されるデバイスの機能を示します。

❗ **重要:** FIPS/CNSA 暗号化は、c7000 以外のハードウェアを管理する VM アプライアンスにのみ適用されます。

FIPS モード情報

デバイス/外部サーバー	HPE OneView FIPS モードでのサポート	ユーザーによる必要なアクション	FIPS モードでサポートされない場合に、FIPS モードに切り替えたときのデバイス/機能の想定される動作	説明
インテリジェントモジュラー PDU (iPDU)	いいえ	iPDU は TLSv1.1+ をサポートしません。 最大キーサイズは 1024 で、SNMPv3 はサポートされないため、基本的には FIPS に対応していません。		非管理状態に移動されます。モード切り替え中にすべての iPDU で「互換性レポート」という警告メッセージ (静的) が表示されます。
サーバーハードウェア、ファームウェア、ドライバーのアップデート	はい	はい、オンラインアップデートの場合、ユーザーが SUT CLI から iLO 5 認証情報を入力する必要があります。	互換性レポートに、オフラインモードの iLO 5/Gen10 サーバープラットフォームではアップデートが機能しないことを通知する一般的な警告が表示されます。オンラインモードの場合は、SUT をインストールし、CLI を使用して認証情報を入力するように通知するアラートに変更されます。FIPS モードの iLO 4 ではアップデートを引き続き利用可能です。	

表は続く

デバイス/外部サーバー	HPE OneView FIPS モードでのサポート	ユーザーによる必要なアクション	FIPS モードでサポートされない場合に、FIPS モードに切り替えたときのデバイス/機能の想定される動作	説明
外部レポジトリ	いいえ	いいえ	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	外部レポジトリは、FIPS/CNSA モードではまだサポートされていません。内部レポジトリは、すべてのモードで引き続き動作します。
エンタープライズディレクトリサーバーなどの外部レポジトリ	はい	エンタープライズディレクトリサーバーが FIPS に準拠するようにすでに構成済みの場合は、アクションは必要ありません。構成済みでない場合、ユーザーは TLS プロトコル暗号スイートとエンタープライズディレクトリサーバーで FIPS に準拠するように構成された証明書を構成する必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	エンタープライズディレクトリサーバーとの通信では TLS 接続が使用されるため、サーバーのプロトコルと暗号スイートが HPE OneView のそれらと一致すればシームレスに連携されます。
電子メールサーバーなどの外部サービス	TLS オプション使用であれば「はい」	SMTP サーバーが FIPS に準拠するようにすでに構成済みの場合は、アクションは必要ありません。構成済みでない場合、ユーザーは TLS プロトコル暗号スイートと SMTP サーバーで FIPS に準拠するように構成された証明書を構成する必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	

表は続く

デバイス/外部サーバー	HPE OneView FIPS モードでのサポート	ユーザーによる必要なアクション	FIPS モードでサポートされない場合に、FIPS モードに切り替えたときのデバイス/機能の想定される動作	説明
リモートバックアップサーバーなどの外部サービス	はい	はい。互換性レポートに記載された、サポートされているアルゴリズムと一致するように SSH アルゴリズムを変更する必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	リモートバックアップサーバーには、制限されている暗号と自動ネゴシエートする SMTP および SSH アウトバウンド接続があります。
プロキシサーバー	はい	いいえ。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	プロキシサーバーとの通信では TLS 接続が使用されるため、サーバーのプロトコルと暗号スイートが HPE OneView のそれらと一致すればシームレスに連携されます。

表は続く

デバイス/外部サーバー	HPE OneView FIPS モードでのサポート	ユーザーによる必要なアクション	FIPS モードでサポートされない場合に、FIPS モードに切り替えたときのデバイス/機能の想定される動作	説明
ファームウェア 1.11 以降の iLO 5 (Gen10 またはそれ以降)	はい	はい。iLO がまだ FIPS モードになっていない場合または iLO を手動で FIPS モードにする必要がある場合は、FIPS 強度証明書を iLO に追加しなければならないことがあります。FIPS モードにすると、工場出荷時設定にリセットされます。ユーザーは、その時点でサーバーを更新する必要があります。		ファームウェア 1.11 のリビジョンが FIPS 検証のために送信されます。
ファームウェア 2.11 以降の iLO 4 (Gen8/Gen9)	はい	はい。iLO がまだ FIPS モードになっていない場合または iLO を手動で FIPS モードにする必要がある場合は、FIPS 強度証明書を iLO に追加しなければならないことがあります。FIPS モードにすると、工場出荷時設定にリセットされます。ユーザーは、その時点でサーバーを更新する必要があります。		



CNSA モード情報

デバイス/外部サーバー	HPE OneView CNSA モードでサポート	ユーザーによる必要なアクション	CNSA モードでサポートされていない場合、CNSA モードに切り替えたとときにデバイス/機能に想定される動作	説明
インテリジェントモジュラー PDU (iPDU)	いいえ	iPDU は TLSv1.1+をサポートしません。 最大キーサイズは 1024 で、SNMPv3 はサポートされないため、基本的には FIPS に対応していません。		非管理状態に移動されます。モード切り替え中にすべての iPDU で「互換性レポート」という警告メッセージ（静的）が表示されます。
サーバーハードウェアファームウェアおよびドライバのアップデート (オフラインのファームウェアアップデート)	はい	対応する必要はありません。 ファームウェアのみ オプションでは、CSNA モードでファームウェアアップデートがサポートされます。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	
サーバーハードウェアファームウェアおよびドライバ (オンラインのファームウェアアップデート)	いいえ	はい、オンラインアップデートの場合、ユーザーが SUT CLI から iLO 5 認証情報を入力する必要があります。	互換性レポートに、オフラインモードの iLO 5/Gen10 サーバープラットフォームではアップデートが機能しないことを通知する一般的な警告が表示されます。オンラインモードの場合は、SUT をインストールし、CLI を使用して認証情報を入力するように通知するアラートに変更されます。FIPS モードの iLO 4 ではアップデートを引き続き利用可能です。	

表は続く

デバイス/外部サーバー	HPE OneView CNSA モードでサポート	ユーザーによる必要なアクション	CNSA モードでサポートされていない場合、CNSA モードに切り替えたときにデバイス/機能に想定される動作	説明
外部レポジトリ	いいえ	外部レポジトリをホストしている Web サーバーで FIPS/CNSA モード設定を有効にする必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	外部レポジトリは、FIPS/CNSA モードではまだサポートされていません。内部レポジトリは、すべてのモードで引き続き動作します。
エンタープライズディレクトリサーバーなどの外部レポジトリ	はい	エンタープライズディレクトリサーバーが CNSA に準拠するようにすでに構成済みの場合は、アクションは必要ありません。構成済みでない場合、ユーザーは TLS プロトコル暗号スイートとエンタープライズディレクトリサーバーで CNSA に準拠するように構成された証明書を構成する必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	エンタープライズディレクトリサーバーとの通信では TLS 接続が使用されるため、サーバーのプロトコルと暗号スイートが HPE OneView のそれらと一致すればシームレスに連携されます。
メールサーバーなどの外部レポジトリ	TLS オプション使用であれば「はい」	SMTP サーバーが CNSA に準拠するようにすでに構成済みの場合は、アクションは必要ありません。構成済みでない場合、ユーザーは TLS プロトコル暗号スイートと SMTP サーバーで CNSA に準拠するように構成された証明書を構成する必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	

表は続く

デバイス/外部サーバー	HPE OneView CNSA モードでサポート	ユーザーによる必要なアクション	CNSA モードでサポートされていない場合、CNSA モードに切り替えたときにデバイス/機能に想定される動作	説明
リモートバックアップサーバーなどの外部レポジトリ	はい	はい。互換性レポートに記載された、サポートされているアルゴリズムと一致するように SSH アルゴリズムを変更する必要があります。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	リモートバックアップサーバーには、制限されている暗号と自動ネゴシエートする SMTP および SSH アウトバウンド接続があります。
プロキシサーバーなどの外部レポジトリ	はい	いいえ。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	プロキシサーバーとの通信では TLS 接続が使用されるため、サーバーのプロトコルと暗号スイートが HPE OneView のそれらと一致すればシームレスに連携されます。
iLO 5 (Gen10 以降)	はい	iLO を SuiteB モード (実際には CNSA モード) にする必要があります。このアクションには、iLO Advance 高セキュリティ ライセンスが必要です。また SuiteB モードは、iLO が FIPS モードの場合のみ利用可能です。	互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	
iLO 4 (Gen9)	いいえ		互換性レポートに一般的な警告が表示されます。	

HPE OneView の並行タスクとキューに入るタスク

すべての HPE OneView タスクは、リソースのタイプごとに受信した順で処理されます。通常、HPE OneView はリソースのタイプごとに多くのリクエストを受け入れますが、同時に実行されるタスクの数を制限します。

表 8: 並行タスク

タスク	並行操作	リクエストの最大数
論理エンクロージャーのファームウェアアップデート	1	80
エンクロージャーグループからの論理エンクロージャーのアップデート	4	104
論理インターコネクットのファームウェアアップデート	4	36
論理インターコネクットで直接開始されたファームウェア要求と、論理エンクロージャーのファームウェアアップデートによって開始されたファームウェアアップデートでは、同じキューとワーカーが使用されます。		
エンクロージャーの追加	4	104
エンクロージャーの編集	4	104
エンクロージャーの削除	4	104
エンクロージャーの更新	4	104
エンクロージャーの構成の再適用	4	104
ブレードサーバーの追加	64	640
ブレードサーバーの取り外し	64	640
ラックサーバーの追加	20	596
ラックサーバーの取り外し	20	596
ラックサーバーの更新	64	1100

表は続く



タスク	並行操作	リクエストの最大数
サーバーのハードウェア構成（設定を適用） サーバープロファイルの作成、サーバープロファイルの編集、または論理エンクロージャーのファームウェアアップデートのいずれによって開始されたかに関係なく、すべてのサーバーファームウェアのアップデートでは、同じキューとワーカーが使用されます。	64	可変 ¹
iLO ファームウェアのアップデート 現在の iLO ファームウェアバージョンが HPE OneView 管理をサポートしていない場合にのみ、サーバーの追加時に iLO ファームウェアのアップデートが開始されます。	4	36
サーバープロファイルの作成、編集、または削除 <ul style="list-style-type: none"> サーバープロファイルの作成、編集、削除では、同じキューとワーカーが共有されます。 作成、編集、および削除の並行操作は最大 64 件まで可能ですが、特定の内部操作では並行操作が 2 件に制限される場合があります。 	2~64	640
サーバープロファイルの更新	5	640
サーバープロファイルの再適用	5	640

¹ このタスクは、ユーザーが直接開始するものではありません。リクエストの最大数は、他のシステムアクティビティによって変化します。



構成の上限

割り当てられる ID

表 9: 割り当てられる ID の構成の上限

リソース	最大
MAC 範囲	66,240
WWN 範囲	15,360
仮想 SN (シリアル番号) 範囲	1,280

アプライアンス

表 10: アプライアンスの構成の上限

リソース	最大
ファームウェアバンドルの最大ディスク容量	100 GB
同時使用ユーザー数	5

注記: 外部レポジトリを使用して SPP を追加することができます。

接続

表 11: 接続の構成の上限

リソース	最大
物理ポートごとの接続数 (FlexNIC の上限)	8 ¹
ハーフハイтサーバーブレード	6 ポート (デュアルポート LOM カードおよび 2 つのメザニンカード)
フルハイトサーバーブレード	10 ポート (2 つのデュアルポート LOM カードおよび 3 つのメザニンカード)
サーバー 1 台当たりの接続数	24

表は続く



リソース	最大
予約済み接続数 ²	4,800
展開済み接続数 ³	61,440
接続の総数	66,240

¹ 構成詳細については、「[アダプターおよび HPE Virtual Connect の構成](#)」を参照してください。

² すでに作成されているが、特定のインターコネクタダウンリンクに関連付けられていない接続。

³ 物理インターコネクタポート、および場合によってはサブポート（サーバーの FlexNIC）に割り当てられた接続数。

SAN ストレージ

表 12: エンクロージャーの構成の上限

リソース	最大
ボリューム	10,000
ストレージシステム	40
SAN 当たりの管理対象ゾーン数	5,000
SAN 当たりの合計ゾーン数	15,000
サーバープロファイル当たりの SAN ボリューム数	128

エンクロージャー

表 13: エンクロージャーの構成の上限

リソース	最大
エンクロージャー	54
エンクロージャーグループ	54
論理エンクロージャー	54
すべてのエンクロージャーにあるインターコネクタ	240

ネットワークの制限

表 14: ネットワーク構成上の上限値

リソース	最大
ネットワークセットの総数	1,000
ネットワークセット当たりのタグ付き Ethernet ネットワーク数	162
論理インターコネクトグループ	240
論理インターコネクト	240
論理インターコネクト当たりのアップリンクセット数	144

ネットワーク

表 15: ネットワークの構成の上限

リソース	最大
定義された、タグ付き、タグなし、トンネル、および FCoE ネットワーク数	8,192
論理インターコネクト当たりのプロビジョニング済み Ethernet ネットワーク数	1,000
定義可能なネイティブ FC ネットワーク数 (FCoE/FC ブリッジネットワークを含む)	255
インターコネクト 1 つ当たりのファイバーチャネルネットワーク数	8
論理インターコネクトまたはエンクロージャー 1 つ当たりのファイバーチャネルネットワーク数	48
論理インターコネクト当たり最大 5 つの SNMP トラップあて先をファイバーチャネルとして指定することができます。	25
論理インターコネクトまたはエンクロージャー 1 つ当たりのネットワーク数	1,048

表は続く



リソース	最大
物理ダウンリンク 1 つ当たりのネットワーク数 (ブレードシステム)	162
アップリンクセット当たりのネットワーク数	1,000
アップリンクセットまたはインターコネクタ当たりの FCoE ネットワーク数	32
論理インターコネクタごとのプライベートネットワーク最大数	128

電源およびファシリティ

表 16: 電源およびファシリティの構成の上限

リソース	最大
データセンター	640
ラック	640
PDD (電力供給デバイス)	82,016
非管理デバイス	26,880
iPDU	2,560
iPDU コンポーネント (ロードセグメントとコンセント)	76,800
分岐回路	2,560
ブレーカーパネル	64
給電	32

サーバーハードウェア

HPE OneView アプライアンスのサーバーの合計数は、1,024 台を上回ることはできません。1,024 台のサーバーは、個々のカテゴリの上限を超えない限り、さまざまなサーバーカテゴリの組み合わせで構成できます。



表 17: サーバーの構成の上限

リソース	最大
エンクロージャー	54
サーバーの総数 ¹	1024
管理対象サーバー	740
監視対象サーバー	1024
ラックマネージャー	20 ²
Superdome Flex サーバーの合計数 ²	160
Superdome Flex ラックマネージャーの合計数 ²	20
インターコネクトモジュール	108

¹ サーバーを管理対象または監視対象として追加できます。HPE OneView では、管理対象サーバーと監視対象サーバーを、各タイプの最大サポート台数まで任意に組み合わせて追加できます。

² サポートされるサーバーの数は、20~160 の間で異なります。

- ・ 20 台のサーバー：単一のラックマネージャーで 8 つのシャーシからなるパーティションが 1 つ
- ・ 160 台のサーバー：単一のラックマネージャーで 1 つのシャーシからなるパーティションが 8 つ

サーバープロファイル

表 18: サーバープロファイルの構成の上限

リソース	最大
割当て済みのサーバープロファイルの総数	740
未割当てのサーバープロファイルの総数	100
サーバープロファイル当たりのボリュームの合計数	128



サーバープロファイルテンプレート

表 19: サーバープロファイルテンプレートの構成の上限

リソース	最大
サーバープロファイル当たりのボリュームの合 計数	128

証明書チェーンの深さ

表 20: 証明書チェーンの深さの構成最大値

リソース	最大
証明書チェーンに存在する CA 証明書の数	9

ハイパーバイザークラスタープロファイル

表 21: ハイパーバイザークラスタープロファイル構成の最大値

リソース	最大
100 のネットワークで構成されているハイパーバ イザークラスターのプロファイルによって管理さ れるハイパーバイザーの数	32
200 のネットワークで構成されているハイパーバ イザークラスターのプロファイルによって管理さ れるハイパーバイザーの数	24



Web サイト

全般的な Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library

<https://www.hpe.com/info/enterprise/docs>

Hewlett Packard Enterprise Worldwide

<https://www.hpe.com/assistance>

サブスクリプションサービス/サポートのアラート

<https://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

上記以外の Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

製品の Web サイト

HPE OneView のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/oneview/docs>

HPE 3PAR StoreServ ストレージ

<https://www.hpe.com/info/storage>

HPE BladeSystem エンクロージャー

<https://www.hpe.com/info/blades-ja>

HPE Integrated Lights-Out (iLO)

<https://www.hpe.com/jp/servers/ilo>

HPE Integrity Superdome X

<https://www.hpe.com/info/superdome>

HPE ProLiant サーバーハードウェア

- ・ 一般情報 : <https://www.hpe.com/info/servers-ja>
- ・ BL シリーズサーバーブレード : <https://www.hpe.com/info/blades-ja>
- ・ DL シリーズラックマウント型サーバー : <https://www.hpe.com/jp/ja/servers/proliant-dl-servers.html>

HPE Superdome Flex サーバー

<https://www.hpe.com/info/superdome>

Insight Remote のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs>

HPE Primera のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/Primera600-docs>

HPE Insight Control のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/insightcontrol/docs>

HPE OneView Global Dashboard のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/ovgd-docs>



Smart Update (SUM/SPP/iSUT/iSUT) のドキュメント

<https://www.hpe.com/info/sut-docs>

Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) の Storage compatibility matrix

<https://www.hpe.com/storage/spock>

ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート

<https://www.hpe.com/storage/whitepapers>



HPE OneView Remote Technician

HPE OneView Remote Technician を使用すると、問題のトラブルシューティングおよび解決のサポートが迅速かつ容易になります。招待により、認証された Hewlett Packard Enterprise サポート技術者が、問題のトラブルシューティングと診断に安全な TLS 接続を通じて HPE OneView アプライアンスにアクセスします。技術者は、FTP サイトを必要とせずにログを直接ダウンロードします。サポート技術者が問題を診断する間、あなたが立ち会う必要はありません。

HPE OneView Remote Technician は、追加のアプリケーションなしで HPE OneView 4.1 以降に組み込まれています。



サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ・ ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<https://www.hpe.com/info/assistance>

- ・ ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<https://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- ・ テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- ・ 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- ・ オペレーティングシステム名およびバージョン
- ・ ファームウェアバージョン
- ・ エラーメッセージ
- ・ 製品固有のレポートおよびログ
- ・ アドオン製品またはコンポーネント
- ・ 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- ・ 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- ・ 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<https://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<https://www.hpe.com/support/downloads>

My HPE Software Center

<https://www.hpe.com/software/hpesoftwarecenter>

- ・ eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<https://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- ・ お客様の資格を表示、アップデート、または契約や保証をお客様のプロファイルにリンクするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページに移動します。



- ❗ **重要:** 一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。

リモートサポート（HPE 通報サービス）

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE プロアクティブケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja>

HPE データセンターケアサービス

<http://www.hpe.com/services/datacentercare>

HPE プロアクティブケアサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>

HPE プロアクティブケアアドバンストサービス：サポートされている製品のリスト

<https://www.hpe.com/jp/ja/services/proactive-care-central.html>

保証情報

ご使用の製品の保証情報を確認するには、以下のリンクを参照してください。

HPE ProLiant と IA-32 サーバーおよびオプション

<https://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE Enterprise および Cloudline サーバー

<https://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

HPE ストレージ製品

<https://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPE ネットワーク製品

<https://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<https://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACH を含む Hewlett Packard Enterprise 製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などの Hewlett Packard Enterprise の環境に関する情報については、次を参照してください。

<https://www.hpe.com/info/environment>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。このメールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。

